

美川っ子

R2.1.24 文責 岡田憲明

新年の決意(目標)



平成でスタートした令和元年度ですが、令和となった1年目も終わり、新たに令和2年を迎えました。期せずして記念すべき年となった令和元年度(平成31年度)です。記念すべき令和元年度スタートから、子どもたちに言い続けたことは「心に思い浮かべることができないことは、実現できない。(逆に、心に思い浮かべることが、実現できる) みなさんは、どんな美川小学校にしたいですか?」ということです。

子どもたちの思い描く美川小学校も、付箋などを使って書いてもらったり、仲間分けをしたりしてきました。

その記念すべき令和元年が終わり、そして令和元年度が終わる3学期を迎えるに当たり、始業式では以下のようなお話をしました。

○今年(2020年)は、東京オリンピック・パラリンピックの年
○オリンピック選手の決意：競泳代表選手の瀬戸大也さんの話
・「もう、ここまできたら、金メダルをとることだけが目標です」
→失敗したら自分を苦しめることになるかもしれないのに、なぜそれを、世界に向かって発信するのか?

・多くのオリンピック選手は具体的に目標を示しています。(メダルの色、個数など)

・JOC会長の山下泰裕さん(ロス五輪柔道無差別級金メダリスト)も、東京オリンピックでのメダルの個数を具体的な数を上げて示しました。→山下さんは、中学生の時に、オリンピックで金メダルをとるという目標をたててそれを実現した。

★目標は、具体的な方がよい→何を、いつまでに、どうするのか

★自分だけで納得するのではなく、多くの人に示した方がよい
◎新しい年です。がんばりたいことは何ですか→新年の決意

・継続は力なり。少しずつでも毎日続けられることを決めよう。

★失敗してもいい。大事なものは、結果ではなく、一人一人が目標に向かってチャレンジすることです。

◎学校評価の結果から→②学期末の学校評価の結果を見ると、次にあげる項目は肯定的評価が90%をこえていた→

①【ペアやグループで相談したり、話し合ったりするとき、自分の考えが言えますか】

②【わからないことがあったとき、やり方を自分で考えたり、友だちに相談したりしていますか】

③【みんなが楽しくなることや困ったことなどについて、学級で考え合うことができましたか?】

・4月に子どもたちから出してもらった『どんな学校にしたいか』という願いの中の「安心を生む力」、「友だちを支える力」と関係が深い項目の肯定的評価が伸びている。

◎みなさん(子どもたち)の「こんな学校にしたい」という願いは実現する!

★大切なのは「こうなってほしい」と心に願うこと

★その願いをみんなに示すこと

★目標に向かって力を合わせること

「みなさんは、どんな美川小学校にしたいですか?」と子どもたちに問いかけてスタートした平成31(令和元)年度。改めて、学校の主役は「子どもたち自身」なのだと認識させられています。私たち大人の役割は、子どもたちが「こんな風になりたい」という姿を思い浮かべ、失敗も含めた子どもたちのチャレンジをサポートすることです。未来を思い描くことや夢をもつことの主体はあくまでも子どもたち。そしてその実現をするのもあくまでも子どもたち。子どもが失敗をしないようにフォローをするのではなく、失敗をしても諦めずチャレンジすることができるようにサポートすることこそが教育の原点であるのだと感じています。

地域・保護者の皆様に支えられて育っている美川小学校の子どもたち。子どもたちの夢の実現のために、本年も、どうぞ、よろしくお願いします。

伝統を受けついで

令和2年のスタートです。皆様、どのように過ごされたでしょうか。季節感が失われていると言われることが多い昨今ですが大晦日から、お正月にかけては伝統的なことが残っているように思います。



年越しにはそばを食べたり、お正月はお雑煮を食べたりその味も、各家庭で引き継がれたものだと思います。中に入るものも、地域で違いがありますね。

本校でも、低学年がたこあげをしていたり、学級のお楽しみ会で羽根つきをしていたりしました。

校内書き初め会



「〇〇初め」「初〇〇」と名がつくものは、通常、1月2日に行われてきたものが多いようです。(または、1月2日にしたこと)子どもたちも、冬休みの宿題として家庭で、本来の書き初めをしたことと思います。



書き初めの由来を紐解いてみると、一般的に広まったのは江戸時代で、当時の寺子屋教室の普及と明治以降に学校で習字が必修となつてからのようです。昭和初期頃までは、神棚や、学問の神様と言われている「菅原道真」の絵の前で、「寿」や「福」などのおめでたい縁起のいい文字や漢詩を書いて、年神棚へ納めたり、その年の恵方(縁起がいいとされている方角)の方角に貼ったりしていたようです。昔から、書道は文化の最高部門の一つとされており、天皇や公家、歌人や僧侶などが書の名人とされ、その人たちが高い地位の方ということで、書き初めがめでたい風習になったとも言われています。長い長い、昔からの伝統を引き継いできたのですね。



小学校では、1月15日(水)に書き初め会を行いました。1・2年生は



教室で、3年生以上は体育館で行いました。

3年生以上は、普段使い慣れていない、条幅用紙に、大きな筆を使って字を書くのですから、なかなかうまく



はいきません。字の上達（「とめ」・「払い」・「折れ」など）はもちろんですが、「失敗や簡単にできないことに負けない強い心」を育てたり、「一生懸命集中して取り組んで得られる満足感」を感じたりすることも大切です。

子どもたちが字を書く様子を見ましたが、真剣に課題に向き合い丁寧に書き初めを行っていました。一生懸命一つのことを打ち込むということは、子どもたちの自信を育てることにもつながっているようで、子どもたちの口から「よい字ができた」「力を出し切った」というような声も聞かれていました。

子どもたちの「できる」を一つ一つ増やしていくことの大切さを改めて感じさせられました。

縄跳び道場開始

1月14日から、「縄跳び道場」が始まっています。



これは、天候が悪くなりがちな冬場に、体育の時間や休み時間を利用して、継続して縄跳びを行い、子ども



たちの健康の増進や体力の向上、持久力を高めることを目的として行うものです。

曜日ごとに参加する学年が割り当てられていて、高学年が、下学年にアドバイスをしたり、お手本を見



せたりしています。開始前と終了時には、全員で挨拶をして取り組んでいます。



一人一人に『なわとびチャレンジカード』が配られています。2月13日（木）には全校で「なわとび集会」を行うことにしており、それを目標に練習に励んでいるところです。



縄跳び道場は、3月1日まで、継続して行います。なわとびは引っかけたらそこで終わりですが、練習をすればするほど伸びを実感することができるという一面もっています。体育の学習でもなわとびに取り組んでいますので、互いに関わり合

いながら力を伸ばして行ってほしいと願っています。

1月参観日

1月21日はお忙しい中、授業参観に多数ご参加いただきましてありがとうございました。



1年生から4年生までは、「性に関する指導」、5、6年生は「プログラミング」の授業を見ていただきました。



「性に関する指導」は、学年に応じて学習内容は違いますが、「自分が今、ここにいること」「生きていること」の意味について、見つめ直したり、発見したりする学習であると思います。



5、6年生は、東京工業大学の森先生にお世話になり、スカイプで東京とネットでつないで指導をしていただきました。（1月17日には、森先生に美川小学校に来ていただいて第1回目の学習を行っています。）プログラミングの学習は、プログラミング自体をすることが目的ではなく、困難なことや失敗に出合ったときに、どうやって、合理的に解決していくのかというプログラミング的思考を育成することを目的としています。



※本授業を実施するに当たり様（6年 さん、2年



さんのお父さん）には、大変お世話になりました。ありがとうございます。

2月行事予定

- 3日（月）間伐体験（5年生）
- 5日（水）租税教室（5・6年生）
- 6日（木）全校朝礼、外国語活動（ALT）、1年研究授業⑤
- 7日（金）プログラミング教育（5・6年生）、クラブ⑥
- 11日（火）建国記念の日**
- 13日（木）外国語活動（支援員） なわとび集会⑤
学校評議員会 学用品販売
- 14日（金）薬物乱用防止教室（5・6年生）
クラブ⑥（3年生クラブ見学）、全校テスト（国語）
- 17日（月）PTA朝の街頭指導
- 18日（火）コマツ地雷除去出前教室②（5・6年生）
- 20日（木）参観日 外国語活動（ALT）
PTA評議員会 PTA運営委員会
四中入学説明会
- 21日（金）委員会⑥
- 23日（日）天皇誕生日**
- 24日（月）振替休日**
- 25日（火）ラブック号
- 26日（水）鼓笛引き継ぎ式（昼）
メディアコントロールウィーク（3日まで）
- 27日（木）全校朝礼 SC訪問日 外国語活動（支援員）
- 28日（金）委員会⑥、全校テスト（算数）

